

南武、タイに新工場

特殊シリンダー生産能力倍増

自動車向け
需要拡大で

特殊油圧シリンダーを

生産する南武（東京・大田、野村和史社長）は5月、タイで建設を進めてきた新工場を稼働させる。投資額は約3億円、生産能力は年間約8000本と既存のタイ工場に比べ2倍になる。国内市場の縮小や円高など逆風が吹く中、経済成長が続く東南アジア市場の開拓で収益力を強化す

新工場はバンコクから

東に車で1時間のアマタ・ナコーン工業団地で稼働させる。投資額は約3億円で工場面積は約2500平方メートル。当初は約60人の現地従業員を置く。

社は大田区が2006年

にタイに設立した中小企業向け集合工場「オオタ・テクノ・パーク」で生産。タイやインドネシアの金型メーカーなど向けに販売している。

他地域へのグローバル

展開も加速している。昨年には中国の常州市に工場を建設。将来はインドへの進出も計画している。14年9月期までに海外売上高比率を現在の5割から7割まで引き上げる目標だ。

野村社長は「東南アジ

アやインドの成長余地は大きい。現地のニーズに合わせた製品を供給し、新たな需要を掘り起こしたい」と話す。